

取引市場りんご 販売担当者会議



6月2日、本所フルーツステーションにおいて「令和7年産取引市場りんご販売担当者会議」が開催されました。冒頭の挨拶に立った大場組合長は、昨年度のリンゴ販売に対する市場関係者の日頃の尽力へ深く感謝を述べました。「間もなく始まる令和8年産につきましても、皆さんのより一層のご協力をいただきたい」と呼びかけました。その後、取引市場を代表して、東京青果(株)諏訪満果実部課長より市場情勢や今期に向けた見通しなどが語られ、8年度産リンゴの安定販売へ向けて結束を強める会議となりました。



7年産りんごについて
お礼を述べる大場組合長

わい化研究会 青空教室



6月8日、わい化研究会は県りんご剪定士3名を講師に招き、「わい化栽培夕方青空教室」を開催しました。当日は多くの生産者が集まり、農業振興課職員から相馬管内の生育状況や今後の管理作業について説明を受けました。2月開催の「剪定セミナー」と同会場のため、冬に剪定した枝の生育を実際に比較・確認できる貴重な機会となり、参加者の関心は高まっていました。参加した米澤はつさんは、女性剪定士の福土さんに日頃の疑問を質問。「自分が思っていたイメージと違う部分もあり勉強になった。今後の作業に生かしたい」と笑顔で意欲を見せていました。



わい化栽培の
豆知識についても学びました

女性のための 摘果講習会



6月16日、五所地区の田澤俊明さんの園地において「女性のための仕上げ摘果講習会」が開催され、女性部員と地域の女性12名が参加しました。講師を務めた田澤さんは、今年の生育状況や摘果のポイントについて解説。「今年は例年に比べリンゴの開花が早かった。開花が早い年は注意が必要と昔から言われている。また、今年は全国的に花台が長い傾向にあるため、そつした特徴を踏まえた上で、どのような果実を残していくべきか

判断してほしい」と呼びかけました。参加者のなかには今回初めて受講する方の姿もあり、作業の手順を忘れないようスマートフォンで動画を撮影するなど、自身の園地に戻ってからの実践を見据えて熱心に耳を傾けていました。



講師の話に真剣に耳を傾ける参加者たち





丁寧な作業で安心しておまかせ！

6月16日から18日までの3日間、紙漉沢地区の成田達也さんの園地に日本航空（JAL）のパイロット1名と客室乗務員3名が訪れ、リンゴの摘果作業を支援しました。参加者には、収穫や摘果の経験者も含まれており、手際よく作業を進めていました。作業を終えたメンバーからは「丁寧な作業を通じて美味しいリンゴが育つ過程を間近で見られて幸せ。お手伝いしたこの園地を是非また訪れたい」と産地への愛着がこもった嬉しい感想が寄せられました。

JAL援農



昨年、発生したカメムシについて質問が上がっていた

6月18日、管内12カ所で行った巡回講座が開催され、生産者106名が参加しました。農業振興課より今後の管理作業や病害虫対策を解説し、販売課からは、令和8年産からの選果基準の変更点や、サンふじと有袋ふじ18キロ換算で約3,000円の市場価格差が生じている現状などが説明されました。また、今回は常勤役員も同行し、令和7年産リンゴの精算について説明。日々の農作業を労うとともに、今後のJA事業への一層の協力を呼びかけました。

第3回 巡回講座開催



児童に作業手順を説明しサポートします。

6月18日、相馬小学校の3年生9名がリンゴ学習で摘果作業を体験しました。園主の田澤俊明さんから説明を受けた児童らは、保護者やJA女性部員のサポートのもと作業を開始。コツを掴むと、熱心に作業を進めていました。当日は、テレビ取材もあり、代表児童2名が緊張を感じさせない堂々としたインタビュー対応を見せて周囲を驚かせる場面も：作業後にはリンゴジュースで乾杯し、地域の基幹産業を肌で感じる貴重な体験となりました。次回は10月に「葉とり作業」を行う予定です。

リンゴ学習 始動!!



市場情勢を詳しく話す大果大阪青果(株)平川課長代理

6月19日、相馬管内2カ所で行った令和7年産リンゴ晩生種精算報告会を開催しました。挨拶に立った大場組合長は、事業利用への感謝を述べ、「豪雪による減収を補うためにも有袋ふじ等の導入による付加価値をつけるのも一つの案である」と話した。あわせて、「コスト上昇に伴うリンゴ販売手数料の3%への改定に理解を求めました。市場情勢報告では、大果大阪青果(株)平川課長代理が前年の販売を振り返り、「今期も安定した品質・数量の確保が必須です。一玉でも多くの農協出荷をお願いしたい。高値精算に向け全力を尽くす」と力強く呼びかけました。

7年産晩生種リンゴ 精算報告会

